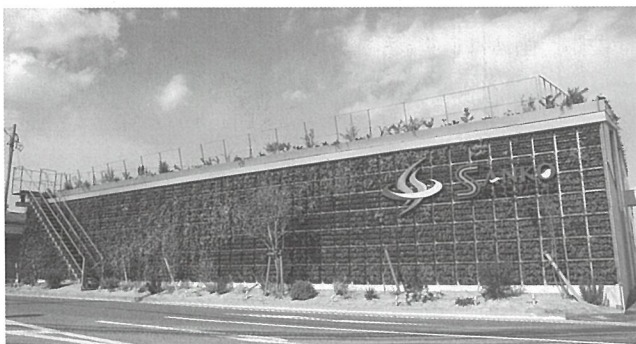


企業訪問 資源循環レポート

サンコーリサイクル（株）

CO₂削減を实践、災害時における 一時避難ビルとしての協定締結 待望の新工場にてプロジェクト始動

サンコーリサイクル（株）



壁面緑化

サンコーリサイクル株式会社

■代表者／金田英和

■所在地／愛知県東海市浅山三丁目190番地

TEL：(052) 601-8883 FAX：(052) 601-8863

平成5年に創業、23年にわたり汚泥処理一筋に邁進し、愛知県内でも有数の老舗処理プラントとして名を馳せ、積み上げてきた実績と処理のノウハウを駆使し、新たに「汚染土壌処理」に特化した工場を建設しスタートしました。

新工場の始動

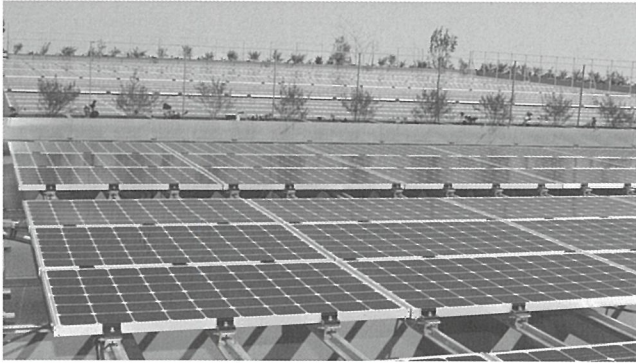
サンコーリサイクルは平成25年に汚染土壌処理業を始めました。許可を取得し約3年の間に多くの汚染土壌を取り扱う中、毎回悩みの種になるのが保管容量の少なさでした。一度に汚染土壌が多く出る現場では保管能力の少なさから受入制限を設け、また同業者に一部処理を依頼するなどして乗り越えてきました。しかし汚染土壌の需要は益々増加が予想され、また緊急時のリスク管理の面でも汚染土壌の保管及び処理能力の向上は、今後において不可欠でした。そのため数年前から構想を練り、昨年建設に着手し、2月26日に徹底的に地球環境に配慮した、次世代型の工場を完成させました。新工場の土壌保管能力は最大約3,000t、新設した処理設備も約1,000t/日の能力があります。



屋上庭園

CO₂削減対策として

二酸化炭素の吸収、温暖化対策として壁面緑化、屋上緑化を実施し、植物への散水は、20,000ℓの貯水タンクに貯留した雨水を利用し自動散水する。工場の屋根には約8割を覆う太陽光パネルを敷



工場屋上に設置された太陽光パネル

設し、発電した電力は工場内の電力として使用し、災害時は緊急電力としての用途も兼ね備えています。

津波・高潮発生時における一時避難ビル等としての使用に関する協定締結式

3月3日 東海市役所において協定の締結が行われ、東海市からは市長 鈴木淳雄氏ら4名が出席、サンコーリサイクル（株）からは金田英和社長ら3名が出席しました。協定の締結式は、鈴木市長から金田社長へ協定書が渡され、互いの固い握手が締結の証とされました。

地元への恩返し、防災施設に向けて（金田氏）

BCPを発端に自社の社員の避難する場所の確保、そして周辺の住民の方々も避難できる施設として、新工場は避難所を目的として設計しました。収容人数は最大200名で4日ほど、100名で7日ほど、快適な避難生活ができることを目標として、備蓄倉庫（100名程の収容が可能）を広くとり、水、食料、燃料が十分に置けるスペースを確保しました。また天井、壁面、床には断熱材を取り付け、寒暖の影響を受けない配慮を施し、電力は太陽光発電の蓄電システムを活用し、夜間でも照明の使用が可能です。



サンコーリサイクル（株）
金田社長



東海市役所で中央に協定書を手にする金田社長、鈴木東海市長と締結式出席者

例えば非常時でも電気炊飯器でご飯を炊くことができ、温かなご飯は不安を感じる避難の方の気持ちを和らげることができます。

工場の高さは約10メートルあり、建屋下部は高さ3メートル、厚さ30センチのコンクリートで覆われ、建物基礎は400本以上の杭を打設し強固に設計している。建設費用は通常の建屋よりは高価になりましたが、我々の命を預ける建物に惜しむことはできませんでした。

●設計者コンセプト

（株式会社アイアンホームズ 古山博章氏）

設計テーマ3要素

①防災施設として

（堅牢な構造、施設の高さ、広さを重視）

②自然環境に対する配慮

（企業理念の主旨）

③景観の寄与

（暗い工業地帯に緑の明るさと夜のライトアップ効果）

新工場の竣工式は地元テレビ局の取材が入るほどの注目を浴び、その日のニュースで「サンコーリサイクル 新工場 竣工式」として大きく取り上げられました。協定の締結式も地元メディアの取材があり新聞に掲載されました。地域の災害対策を、いち早く身を割き具現化された金田社長の先見の明が評価され、業界のイメージアップとして功を奏しました。